

平成17年度光市行政改革市民会議（第2回）【要旨】

開催日時 平成17年8月24日

10時～11時30分

開催場所 市役所3階第5会議室

【行政改革大綱（案）について】

- 「自己決定、自己責任」という言葉が使用してあるが、新自由主義の発想に基づく言葉である。行政が使うのには相応しいかどうか疑問だ。
(※新自由主義：政府の過度な民間介入を批判して、個人の自由と責任に基づく競争と市場原理を重視する考え方)
- 自己とは誰を指す言葉なのか理解できるようにするべき。
- 基本的視点・1 評価を通じた成果志向による行政経営・2 行政と市民の協働と適切な役割分担・3 市民の目線からの行政サービスの提供の説明はピリオドがなく文章が長い。40～60文字で切り、主語、述語をはっきりすることによりパンチがでてくる。
- 大綱の推進について、行政改革市民会議というのは、5年間フォローをすれば良いということなのか。時代が変化しているのだから他にも必要なものがあるのではないか。例えば、行政の施策を評価する場合、具体的に評価する機関を置く等、流動的に対処すべきではないか。また、進行の管理においても、もっと市民が参画できるような具体的な仕組みを考えるべき。ホームページで公開するようなことではないのではないか。もう少し広く市民の意見を聞く仕組みづくりが大切。
- 第3回の市民会議で発言された「インパクトのある」というのは、一般の人にもっと知ってほしい。接点を増やすという意味だと思う。地域のことを考えてみたい人を巻き込むのには理解しにくいのではないか。
- 「新しい公共空間」という言葉は、新しい概念なので興味を持つ人が多いのではないか。もっとセンセーショナルに打ち出してはどうか。この新しい公共空間について、企業と市民が並んでいるという考え方で、企業が利潤活動を追求するなかで社会貢献的活動をする場合があるし、市民が私的活動をするなかでビジネスチャンスをつかむ場合もある。こうした場合、お互いにリンクすることも考えられるのではないか。

【実施計画について】

「1. 市民とともに築く市政の推進」

- 交際費の用途の公開について、基準の作成が18年度からとあるのはどういう意味か。財政状況の公表が平成17年度からと記載してあるので、交際費についても平成17年度か

- ら可能ではないか。何か、秘密の部分や問題があると誤解される。
- ホームページの充実について、現在も十分充実していると思うが、これ以上充実させるといのはどの部分についてなのか理解できるようにする。
 - 予算編成について編成作業について電子化されているのか。庁内の LAN が整備されていれば可能ではないか。予算編成過程において、密室で行うのではなく、情報が公開できるのではないか。
 - どの部分で市民が意見を言えば良いのか。例えば、パブリックコメントの手続きの制度化や市民活動推進のための基本方針策定等について、制度や基本方針を作る段階で意見を言うことができる場を記載してほしい。その段階で意見を言うことができれば参加し発言することももっと身近に感じられると思う。
 - パブリックコメントを制度化するとと言われても、「こうします」という決定事項を聞かされても何もできない。
 - 議会と市民との遊離に問題がある。議会は市民の代表であって我々が選んだわけである。議会は関係ない、別のものという考え方はいけない。意見を議員にぶつけて議会で公表してもらうことも大切であると思う。団体を作って意見の吸い上げを行うだけでは、議会は何のためにあるかわからない。
 - 市民に知らせることにおいて、全ての情報を明らかにすることが良いことだとは思わない。情報を開示することにより業務が萎縮していくのではないか。もっと、灰色の部分を広げて良い。知られていないところで思い切り動くことができるという、裏の仕組みを充実させないと改革はできないのではないか。裏の仕組みについて、抽象的に市民に情報を伝え、具体的には伝えない。例えば、一般企業でいう研究開発的部分。家庭の中でも自分の部屋がなければ窮屈でストレスがたまってしまう。
 - 萎縮していると、意識改革はできない。
 - 情報公開・説明責任の公表の部分で、非常に大切なパブリックコメントについて聞きたい。公開しているだけではだめだ。市民参画という視点で公開すべき。行政は、10月頃には次の年の予算編成に取り掛かる。これは、その年の予算が執行されていない状態である。そうすると、結果が出るのは2年後ということになる。その中で市民参画をすることは非常に困難で知恵がいることであると思う。従ってパブリックコメントについて秘書課の仕事ではなく、行政改革推進室の仕事であると思う。全庁的にどのように取り組んでいくかという議論が必要。最終的にホームページや広報で公開することについては、秘書広報課の仕事であると思う。考え方が重要である。評価についても、市民の意見を広く求めることがパブリックコメントであると思う。
 - 情報を外に出す場合、視点を変えないとわかりにくい。「市役所は変わります」と言われても、そうかと思うだけで、市民の側から「何ができるのか」というのが書かれていなければ理解することができない。

「2. 市民満足度を高める市政の経営」

- 指定管理者制度の受皿づくりについて、具体的に能力のある人を育てるという意味なのか、仕組みを作るという意味なのか。
- 県の施設が指定管理者制度に移行しているが、経費が掛かっている。目的は経費削減だと思う。民間の事業者が関わることによって経費の削減が図れるのではないか。まさに、民間の知恵が大きな力となる。行政が関わることによって、経費が余計に掛かるのではないか。
- 施設利用者に対するサービス面において、民間のノウハウ・活力を利用し、制度を運営しても行政の関わりが多くなるとイベント等において面白味がなくなる。県においては、業務計画書等を提出させるなど関わりが多いと思う。行政主導の受皿づくりではいけないということだ。
- 公民館の運営について、現在は主事が行っているが、地域の公民館運営委員会に全て委託して行えば良いと思う。市から派生された主事ではなく、地域から代表を出す。予算においても費目が小さく分かれているが、まとめて公民館活動費として運営していくのが良いと思う。
- 自治会での道路維持管理について、この項目についても可能であると思う。やれることからやっていくべきだと思う。私たちの自治会でも市道の草刈は、市には報告していないが行っている。行政として、地域の自治基盤を高めることは望むところだと思う。絶対に地域の自治能力を高めることはやっていかなければならない。
- 合併前の大和地区においては行っていた。合併してからは、どうなっているかわからないのでやっていない地区もある。
- ごみの問題について、有料化はやったほうが良いと思う。分別して搬出する問題、ごみの減量化は有料化することによって解決できる。それには、自治会が関わっている。そういうことを行うことによって自治能力は高まっていく。
- 公民館の運営について、塩田の公民館は老人会の会長さんがやっておられる。運営委員会を持って運営を行っている。
- 自治能力ができていのかどうかは目に見えるものだ。我々住民一人ひとりに認識できる分野で運営していくべきである。ごみの搬出でもやはり違反者が出る。いろいろ対策をしてゼロにしてもまた、違反者が出る。そういうことを繰り返している。
- 道路を通っていると、自治会によって違いがよくわかる。
- 地域の自治能力を高めることによって行政改革を進めることができるし、まちづくりにつながっていく。
- 大和地域は自治会という考え方はなかった。合併してそういう考え方に変わっていくので行政からの指導も願いたい。
- 行政評価システムの構築について、「内部評価は評価でない」。第三者に組織とその運営についてチェックと評価を依頼することになる。その主役は議会である。本当は議会がきち

んと評価を行えば問題はない。市民レベルの発想のなかで議員さんが動いているのだろうか。新たに市民代表で評価するよりも有効である。新たな組織を作ることは、莫大なエネルギーを要する。

- 光市を完全に離れた専門家に依頼すると経費も掛かる。
- それは、議会の事務スタッフなどをあてて充実させる方が良いのではないか。
- 民間の場合は予算に対して、より少ない経費で成果が上がったら評価が高いのに対して、行政の場合は、予算と大きく違っていると評価が低い。そういう考え方も変えていかなければならない。民間的な考え方に変えていかなければならない。
- 指定管理者制度について、「国がやれ」というのだから一つの手法としてやらなければしかならない。行政として「こういうことをやっている。」から市民参画だということではない。市民にわかる目線でやる必要がある。例えば、道路の維持管理をこれから自治会で行う場合、イエスかノーかを聞くというパブリックコメントを求める。行政もやったことをPRするのではなく、市民の目線で、「皆さんがこう言っているので、やりましょう。」ということを経済に提案する目線が大切。市民参画が大切だと言われているから情報を公開し、評価もしなければいけないのではない。住民サービスも今までは上から下ろしてくれば十分だったが、そうではない住民サービスをこれから行っていかなければならない。市民の意見が大切。市民に意見を問かけるときも「政策に対して合か否か」という問題は専門家でなければ無理。もっと具体的な問題に対して投げかけると答えが返ってくる。それを行政の施策に反映するのが良い。
- 市民満足度を高めることは必要だが、そればかりだと経費の削減は困難。逆に、不満足度に関して「ここを我慢すると経費が削減できる」というアイデアもどこかに記載すると良いと思う。プラスとマイナスの両方があれば効果が大きくなる。
- 全国的には給食は普及しているのではないか。
- 給食制度について、戦後苦しい時代があり、平等に昼食を食べるという趣旨で始まったが、現代はほとんどが中流階級になり制度自体を見直す時期ではないか。
- 市が給食に対し効率性のみでなく、食育という観点も重要視されているのであれば現状を公開し指導をするというアクションも大切。行政ニーズに応えるだけではない。

「3. 意欲あふれる柔軟な組織体制」

「4. 市民の要望に応えられる財政基盤の確立」

- 病院等の事業会計には議会がチェックしているが、土地開発公社などはチェックしているのか。
- 公営企業の経営健全化について、策定することは実施項目ではない。数値目標を達成することが目標ではないか。病院事業中期計画を策定し実行するというのが正しい。平成13年にもらった実施計画とあまり変わっていない。予算に対しても「予算の組方を根本的に

変えるのだ」という発想が必要。

- 今までと違った行政改革を行うという気構えが必要。各項目に重点的な柱を設定して、その柱に沿って予算の配分をしていく。重点化が必要。重点取り組み項目がなければわかりにくい。
- 各課において、それぞれの所管で具体的に「何を変えていこう」という姿勢が大切。
- 予算について、シーリングというのがあるが、どれもこれも全て 10%削減というのは如何なものか。能がない。理念に従って評価した上で予算配分を考えるべき。

【第2部会意見要旨】

開催日時 平成17年8月24日
13時30分～15時
開催場所 市役所3階第5会議室

【行政改革大綱（案）について】

- 実施計画が問題。大綱（案）についてはよくできていると思う。大綱については考え方、方向性の問題である。
- 平成11年度からの行政改革大綱を見たが今回は分類にも苦勞の跡が見える。
- 新しい公共空間の資料について、出典が記載してあるのが非常に良い。大綱には、総務省からの指針については出典が書いていない。指針は3月29日なので5月の市民会議には間に合ったのではないか。

【実施計画について】

「1. 市民とともに築く市政の推進」

- 実施計画において、年間計画は立てないのか。年間計画を立ててフォローアップを可能にしてほしい。年間計画において「誰が」「何時」「何を」「どのように」「どうするのか」を決め、責任の所在を明確にしなければならない。責任を明確にすることによってフォローアップができ、行政改革も進めていけると思う。
- 市民の意見を聞くことについて、地域ごとの意見は、自治会組織でなければ意見が出ないと思う。寄せ集めで意見を求めても意見は出ない。そういう意味で自治会組織の醸成が大切。自治会を育てるようにして連合自治会から意見を求めるのが良い方法である。実施計画にも自治会の醸成についての記載がほしい。
- 説明責任能力に関して、「市民に理解しやすい方法。」という言葉で書いてあり良いことだと思う。ぜひ、理解しやすい方法を研究してほしい。数字を示すだけでは駄目。市民がわ

かりやすい言葉で説明してほしい。説明方法を研究するべき。

- 数値目標について、実施計画をみると可能な限りと書いてあるが少し弱いと思う。現状把握と目標は数値化することが必要だと思う。項目にあがった理由があるはず。普段の検証が必要。大変だが数値化の必要がある。
- 数値目標に関して目標を立てにくいものもある。市民満足度について、時々市民アンケートのようなものを実施してはどうか。今後、どのように検証していくかも重要な問題。
- 他の自治体と比較しながら実施計画を見ていたが、パブリックコメント・バランスシートなどは既に実施している自治体もあるので導入は可能だと思う。前向きに取り組んでほしい。
- 男女協働基本計画については、他自治体及び県は、概ね 30%となっている。もう少し努力してほしい。
- 道路維持里親制度については、道路等の維持管理については自発的なボランティアで行うという意味で補助金は出ないということか。
- 若い人の政治離れについて、若い世代に少しでも政治に関心を持ってもらえる施策が必要。市民会議等の集いにおいても年齢層を広げてはどうか。
- これからは、20代～40代の人たちに関心を持ってもらわなければならない時代になる。自分たちの生活環境は自分たちで守らなければならない。率先して行事・ボランティアに参加してもらわなければならない。
- 道路の草刈・清掃を月2回自治会で行っている。1年半続けることによって、若い人たちも参加するようになった。自治会が努力することにより道路が美しくなったことが地域の人にわかってもらえた結果だと思う。年配者が努力することにより若い人たちに理解してもらえる。実績で示さざるを得ないと思う。
- やまびこ文庫で若いお母さん方と話し合うと、市広報を読んでも見出しは読むが内容が難しいので読まないという意見があった。内容をわかりやすくして、子育てや教育関係の記事を充実してほしいとの要望があった。若い人も意見を持っている。政治に関心がないわけではない。子育てサロン等小さいグループもあり、アンケート等で意見を吸上げることは必要ではないか。
- 情報の公開について、公表の方法は広報、ホームページ等になると思うが秘書広報課がすることになるのか。

「2. 市民満足度を高める市政の経営」

- ごみ、給食の問題は人の問題意外に何か問題があるのか。これくらいの問題が解決できないようでは行政改革などできない。なぜ、調整中なのかがわからない。石城苑の民営化は参考になるのではないか。
- こういう問題が解決できないようでは、職員の人員削減・給与カット等の問題は絵に描い

たもちになってしまう。退職不補充しかできない改革になる。職員の資質が高くなったら
できるという問題でもない。

- 民間の考え方だが、企業では仕事を一部外注に出す場合人を付ける（出向）。給与も保障される。
- ぜひ、頑張ってもらいたい。民間で生きてきた我々にとって「何でこれが・・・」という思いが強い。
- 意欲の問題。まず、市長以下部課長が率先して何事にも取り組むことが大切。企業等は部課長が自分の職場の掃除をやっている。それくらいの意欲がなければ改革はできない。
- 仕事をやってもやらなくても同じ給料なら誰も仕事をやらなくなる。税金だからそれで済む。仕事をする人とならない人の差をつけなければいけない。
- 先日、支所の職員が水道修理をやっていたが、夜遅くまで頑張っていたので感心した。
- 自治会で何か要望した場合、必ず二人で来るのは無駄だと思う。一人で十分。どの課でも同じ。企業なら二人では来ない。能力が足りないのではと思う。かなり、余裕があるのではないかと思う。
- 「言った、言わない」のトラブルを防ぐために必要らしい。
- やはり、信頼される職員の育成。権限の委譲。責任の明確化。

「3. 意欲あふれる柔軟な組織体制」

- 汲み取りの問題。自治会で高いと問題になっている。1社しかないのが問題ではないか。柳井等は安い。競争意識のない企業は駄目。
- 行政・人事評価システムについて、他市の事例を参考にしてはどうか。
- 他市の状況を把握（視察）するための特別な予算はあるのか。人と話をするこ
によって吸収できることもある。
- 人事評価システムについて公正・公平が問題になる。評価について内部にするか、外部にするかわからないが評価者が教育を受けて客観的にできるように検討してほしい。

「4. 市民の要望に応えられる財政基盤の確立」

- 6月に人間ドックに行ったが、今までは、最後に医師からの説明があったが今回は検査結果が送ってただけだった。サービスの低下ではないか。こんなことでは、患者が他の病院へ行ってしまう。どうして、検査結果だけを送ることになったかをぜひ、確認をしてほしい。
- 残業について、年間240時間というのは、月20時間ということ。代休制を利用して時間外削減を図るべき。国民の税金という意識で削減をぜひ行うべき。

- フレックス制度を取り入れれば、時間外勤務が減る見通しはあるのか。
- 市役所によく来ているが、遊んでいる人間が多いと思う。行政監視員にしてもらえば悪いところは指摘ができる。
- 情報交換等もあるので一様に遊んでいるとは言えない。
- ISO の取得は行政の質の向上、人の教育という意味で考えていないのか。
- ISO に関して記載しておいてはどうか。
- 大綱の最後の部分に用語の解説があったが今回は見当たらない。PFI など初めてでる用語について用語解説を記載する方が良い。
- 不燃ごみの回収については記載がないがどうか。可燃ごみと総合的に考えてはどうか。
- IT の申請について、パソコンを持っている人の実態はどうなのか。
- 申請は申し込みのみなので、市立病院等の受付についてはどうか。市民にとって「やってよかった」と思えるようにすべき。
- コンピュータ・カレッジの卒業生は採用しているのか。
- 年間計画について、年次結果を市民会議に報告をしていくことになると思うが、市役所の中には観察的役目を負うところはあるのか。会社の中には部長会議がある。
- 進行管理についてホームページ等で市民に公開するとあるが、「速やかに」という言葉を入れてほしい。実は、市民会議は「何をやっているのか」と言われる。状況をホームページで逐次報告してほしい。
- 予算の作成過程を掲載している市もある。
- 補助金・職員の報酬等難しい問題があるが頑張してほしい。合併の時には、議員定数を見直したが、再び、考えるべき時期が来ているのではないか。